DevOpsのこれからと Platform Engineering

2023/09/29

DevOpsとは

- 「顧客に価値を素早く届けるため、開発・運用が協力する、文化的な姿勢・取り組み」のこと <u>^1</u>
- デプロイまでの流れを高速 化し、開発・運用のサイロ を取り除く文化が重要
- (企業によってポジショント ークがあり、定義が異なる ためややこしい)

DevOpsの実践度

- IDC Japanの調査によると、 DevOpsの実践率は年々伸び ている。 ^2
- 2022年の調査では59.3%の 実践率
- しかし、結論として「ビジ ネス上の効果が得られてい る企業は増えていない」と ある。

DevOpsの実践は難しい

例:DevOps に求められる技術

学習ロードマップとして

Programming Language, OS, VCS, Containers, Cloud Providers, Network, Serverless, IaC, CI/CD Tool, GitOps, ServiceMesh etc...

などが挙げられている。<u>^3</u>

つまり、DevOpsを落とし込むと、、、

エンドユーザーに届けるまでに多くの技術が関わる

開発者「こんな に意識しきれな い・・」

よくある導入

DevOps Team Silo

- 「DevOpsチームを新しく作ったから、DevからOpsに渡るまでのセットアップはよろしく!」
- マイクロサービスごとにセットアップを任せられる。

DevOpsチーム 「管理しきれな い・・」

デプロイ・運用までを 抽象化できるPlatformが必要

Platform Enginieeringの需要

Platform Enginieeringとは

- Garthnerの「先進テクノロジのハイプ・サイクル: 2022年」で登場 <u>^5</u>
- 開発者体験と生産性を向上 させるためにセルフサービ スで利用できるツールチェ ーンとワークフローを設 計・構築する分野 ^6

どう変わるのか

開発者は抽象化されたセルフサービス基盤(IDP)でデプロイする <u>^7</u>

開発者が多様なツールを意識せずとも 開発に集中できるように

DevOpsや共通基盤を 言い換えただけでは? ⁽²⁾

Platform Enginieeringは何が違うのか

- 顧客 = 開発者として、『価値』を届けることを重視する。
 - 価値: 開発者の認知負荷を軽減する
- Platformを製品として捉える。 => 『Platform as a Product』
- ゴールデンパスを用意する <u>^8</u>

事例

- 開発者向けの基盤をつくる メルカリ
- ヤフーで KaaS ベースの PaaS ができるまで

開発者を補助するための内部Platformを一つの製品としてデザインする => 製品開発と同じアプローチを取る

忘れてはならない DevOpsは文化

^9

サイロと文化を改善する

- まず己の組織を知る
 - 組織文化のモデル化と測定 例: Westrum の組織類型
- 開発と運用の責任の共有
- アプローチ例
 - チーム間で同じ立場にある人同士で信頼関係を築く
 - 現場担当者に部署間の移動を促す
 - チームの協働を容易にする作業を推進し、成功すれば褒賞を出す
 - 情報共有のための場作り

文化改善も変わらず重要

Platformで組織の連携を加速させる

具体例はまだ思い浮かびません 😢

「やりたいことなんてない。これから 見つけられるかどうかもわからない。 でもみんながやりたいことがあるなら それを援護することはできる」

SHIROBAKO ©「SHIROBAKO」製作委員

DevOposは愛♥

まとめ

- DevOpsの実践はツール群の複雑な組み合わせにより実現され、認知コストが高い
- そこでPlatform Engineeringによる製品開発のアプローチで、開発 者の認知コストを下げた開発フローを構築
- しかし、Platformのみでは組織は改善されず、文化改善のアプローチも重要
- 文化改善に繋がるPlatformをデザインすることが鍵になる(と思われる)

※ 蛇足

このスライドは Marp という Markdownをスライドに変換 出来るツールで作っています。 ^1 スライドをMarkdownで管理してみたいそこのあなた! 是非お試しを!

参考: <u>Marp入門~応用</u> <u>markdownでプレゼン資料を楽</u> <u>に素早く作って発表しよう</u>